

齊藤中国総合通信局長が島根県情報産業協会で講演

～ また、松江市の松浦市長を表敬訪問し、Wi-Fi設置候補地を視察 ～

齊藤中国総合通信局長は、平成26年5月21日、島根県松江市で開催された島根県情報産業協会通常総会における講演会で、「ICTの技術とアイデアで地域の元気をつくる！～『山陰・山陽スマート観光プロジェクト』の推進など～」をテーマに講演しました。

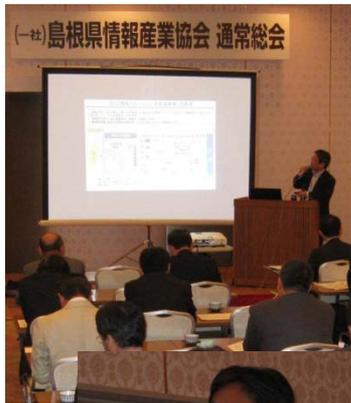
齊藤局長は、“外国人や高齢者に優しく若者を惹きつける”『スマート観光』の導入と普及を促進するため、中国総合通信局と「山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会」が共同で実施する、「Google Glassを活用したAR観光アプリの実証デモンストレーション」や出雲大社、石見銀山をめぐる「スマート観光体験バスツアー」等の取り組みを紹介するとともに、“いま山陰、島根のICTが熱い”と、ICT分野の人材育成、企業誘致、産業振興に熱心に取り組んでいる島根県の関係者にエールを送りました。

翌日は、松江市の松浦市長を表敬訪問し、松江発のプログラミング言語のRubyを核として産業振興、まちづくりを進めるRuby City MATSUE プロジェクトの取り組みや総務省の防災情報ステーション整備等事業を活用して官民の連携で整備する観光ナビゲーション「縁むすびスマートナビ」の取り組みについて意見交換を行いました。齊藤局長は、「松江市のように観光ブランド力のある都市で、市内の広範囲にWi-Fiを面的に整備し、なおかつ、最先端のAR（拡張現実技術）と多言語に対応したリッチな観光コンテンツを整備しようという構想は、当局が推進している山陰・山陽スマート観光プロジェクトのまさにモデルになるものであり、ぜひとも応援したい」と話しました。**※松江市は山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会の会員。**

中国総合通信局では、今後もICTの技術とアイデアで地域の活性化に取り組む自治体等を応援していきます。



約100名が参加した講演会場



スマート観光プロジェクトの取り組み等について講演する齊藤局長



松浦松江市長(中央)と意見交換する齊藤局長(右)



松江市の観光ナビゲーション「縁むすびスマートナビ」のWi-Fi設置の候補となる観光施設等を視察する齊藤局長